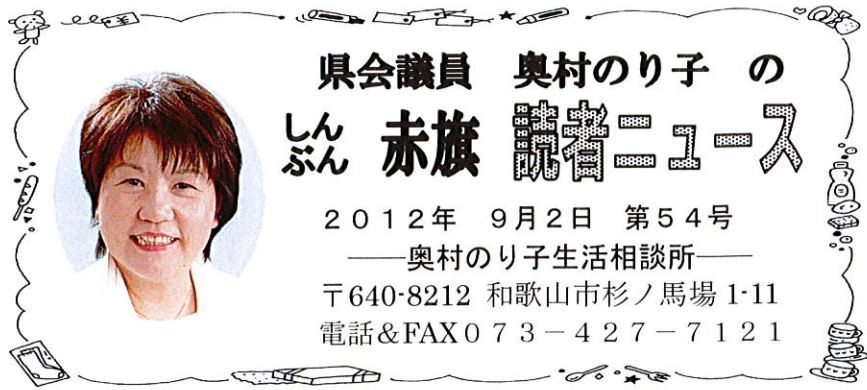


県会議員 奥村のり子の  
しん 赤旗 読者ニュース

2012年 9月2日 第54号

—奥村のり子生活相談所—  
〒640-8212 和歌山市杉ノ馬場1-11  
電話&FAX 073-427-7121



ハンセン病療養所  
ふれあい訪問に参加



県のふれあい訪問事業に応募し参加しました。ことしは知人なども応募し行かせていただくことができた！へん喜ばれていました。知人の実家が訪問先の隣町ということですが、施設内を見学したことがなくあらためてハンセン病の歴史を知り、もっとみんなに伝え

たいといわれていました。写真は長島愛生園歴史館の前で知人のみなさんとともに撮ったものです。右から二人めがのり子です。

リレートーク

Relay talk

首相官邸へ広がる抗議の嵐

首相官邸への抗議の声は、金曜日の「原発止めろ」、水曜日の「貧困なくせ」、火曜日の「TPP（環太平洋連携協定）参加するな」と広がっています。

こうした声は、野田政権は退場せよという意思を突きつけているようにも見えます。ウソとごまかしの連続で、民意からかけ離れた野田首相の言動は、腹立たしいことばかりです。

8月10日、消費税増税法案の可決、成立後の会見で首相は、「引上げられた分はすべて社会保障として国民のみなさまに還元されます」とのべ

ウソとごまかしは許せません

ました。増税分で社会保障を豊かにする計画などなく、削減ばかりのメニューを用意しているのに、「還元」とは意味不明です。さらに、防災などを名目に大型事業に「重点的に配分する」と、法律に書き込んだことは会見ではふれずじまいでした。

8月22日、反原発の市民との面談で首相は、「国民生活への影響等の必要性など総合的判断で再稼働を判断した。特定の経済団体等のためではない」とのべましたが、これを真に受ける人は少ないでしょう。再稼働しないと電力不足になるかもしれないと政府と電力会社は国民を脅してきましたが、現実はどうでしょう。

この夏、関西電力の原発以外の最大供給実績は2946万KW、需要のピークは2682万KWですから、電力には十分余裕があるのです。政治を根本から変える審判が必要ですよ。

“原子力村”住人が率いる「規制」委員会はインチキ

官邸前行動を続ける市民集団が野田首相と対面で要求書突きつけたのは8月22日。要求の一つ「原子力規制委員会の人事案撤回」は、24日に修正なしで閣議決定し8月中にも国会の議決を狙う。5人の委員候補で委員長を含む3人は「原子力村」の住人だ。「原発利益共同体」として①電力会社、原発メーカー、大手ゼネコン、鉄鋼・セメントなど財界。②原発推進の政治家。③特権官僚。④御用学者。⑤大手メディアが「原子力村」のペンタゴン（五角形）で支えあう集団。長年国民の電気代や税金による原発マネーで「安全神話」をふりまき巨大な利益をむさぼってきた。例えば政治家には献金、メディアには広告料という形で群がり、規制委員長に推挙された人は俗に原子力村の「村長」とも揶揄される人物。これでは「規制」どころか原子力「推進」委員会だが、平気で「独立性の強い規制機関」（27日NHK）と言う野田首相の無神経ぶり…。皆さんどう思いますか？（編集室）

のり子の週間予定（主なもの）

- 8月31日 市駅前・吉宗像前朝宣伝、地域訪問
- 9月1日 医労連大会、看護学院クラス会
- 2日 会議
- 3日 県議団福島県視察
- 4日 々々
- 5日 団会議、障害者問題対策会議
- 6日 無料生活相談日

党県・国政事務所長  
くにしげ秀明

